

「救い主イエスの誕生」

ルカ2:1～20 p106

毎年クリスマスが巡ってくるが、このベツレヘムにおける降誕について書いているのは、四福音書の中でルカだけである。マタイも主イエスの誕生について書いているが、マタイの記事は貴族的で知識的、宗教的であるのに対して、ルカは庶民的、労働者的、行動的である。

ルカはパウロがエルサレムで捕らえられ、カイザリヤに滞在させられた数年間、ユダの地を歩き回り、母マリアからも多くの資料を得て、自信を持ってこれを記したと伝えられている。

異邦人であったルカは、神が人となられたというだけでなく、ここまでへりくだって下さったという驚きと感激、自分でさえも手の届く所にまで来られた。十字架に架かるために生まれて下さったという、大きな恵みを伝えているのである。

私たちが旅行に行き、泊まる所がなかったら、汚く、臭い部屋に通されたらどう思うだろうか。文句の一つも言いたくなる。しかし、ベツレヘムの家畜小屋にたどり着いた、若いヨセフとマリアは分かっていた(ミカ5:2)。知る者が誰一人ない、家畜のいる中での出産。そこに、彼ら二人にしか理解できない、輝く栄光のおとずれが与えられたのである。彼らは確かな信仰をもって、栄光の救い主を我が子としてお迎えし、その腕に抱いたのである。

しかし、神は彼らをそのままにさせておかない。人間は誰も知らなくとも、天の大軍勢はだまっておられない、夜空を覆い尽くす喜びの讃美は轟いた。王の王、主の主、神であられる方が人となって生まれられたと叫ばずにおられない。そしてそれを聞く特権に与ったのは最下層の野宿の羊飼いたちである。彼らはこれを聞いて、救い主を捜し、見つけ出し、礼拝した。目印は、牛や馬のエサ箱をベビーベットにしている赤ちゃんであった。

[聖書の学び]

I、救い主の降誕を導かれた神

イエス = イエシュア 又は ヨシュア…主は救い

インマヌエル = キリストの呼称…神我々と共にいます

1、母となるために選ばれたマリアの信仰 (ルカ1:31～38 p107)

①御使いは、処女マリアに生まれる子の名前を何と告げましたか。(ルカ1:31)

②マリアに与えられた神からの恵みとは何でしょうか。(ルカ1:32, 33)

③マリアの理解出来なかったことに対して御使いは何と言いましたか。(ルカ1:35, 37)

④理解出来たときのマリアの返事は何でしょうか。(ルカ1:38)

2、父となるために選ばれたヨセフの信仰 (マタイ1:18 p1)

①ヨセフの悩みは何でしたか。(マタイ1:18)

②御使いは、夢に現れヨセフに何と告げましたか。(マタイ1:20)

③御使いは、ヨセフに生まれる子の名前を何と告げましたか。(マタイ1:21)

④「インマヌエル」とは、イザヤの預言を良く知るヨセフの理解にとって、どのような意味があったのでしょうか。考えてみましょう。(イザヤ7:14 旧約1178)

Ⅱ、救い主を礼拝した人々 (ルカ2:11～12 p110) 3組だが、あと1組は次回に学ぶ

1、一番最初に救い主を拝みに来た人々… 極貧の雇われ羊飼

①御使いらが彼らに伝えたメッセージは何ですか。(ルカ2:11～12)

②御使いらが去った後、彼らはどうしましたか。(ルカ2:15～17)

2、次は、救い主を神殿で拝むことができた人々…シメオンとアンナ (ルカ2:21～38 p111)

①八日目、神殿に行った両親は主イエスをお献げするために、何をしましたか。

(ルカ2:24)

・割礼……アブラハムから始まる信仰の証し

・献児式……貧しい家鳩の雛のささげ物。 御聖霊に導かれた二人の聖徒たち。

②救い主を待ち望むシメオンにご聖霊が語られたことは何でしょうか。(ルカ2:26)

③シメオンが母マリアに語ったのはどのような預言でしょうか。(ルカ2:34,35)

④救い主を待ち望むアンナは何をしたのでしょうか。(ルカ2:36～38)

* ディスカッション (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。